

敬愛する永井恒司先生を偲んで

崇城大・薬 小田切 優樹

永井恒司先生のご生前のお姿を偲びつつ、心より先生のご冥福をお祈り申し上げます。

永井先生のご遺影を前に、過去の記憶や思い出がよみがえってきます。今日、私が薬学の世界で人並みに活動してこられたのも、先生の温かいご高配の賜物と肝に銘じております。ある意味、永井先生は恩師のような存在でした。思えば今から 40 数年前、1980 年 9 月、ハンガリー・ブダペストで開催された第 1 回シクロデキストリン国際会議以来、先生と親しくさせていただき、何かあると「小田切さんやってくれますか」と表舞台に立たせていただきました。私事ですが、2、3 紹介させていただきます。

1 つ目は、アジア薬科学会議（AFPS）です。永井先生は、第 1 回の AFPS の開催地は、今までの実績から日本が妥当だろうとのお考えのもと、「日本開催ならアジアの玄関口、福岡が最適な場所だ、小田切さんやってくれますか」と言われ、大会長という名誉な役割を謹んでお受けしました。学会は 2009 年 10 月、九州大学医学部百年講堂で開催され、300 名を越える参加者は外国からの参加が日本人よりも多く、成功裡に終えることができました。その後、AFPS はアジア諸国で開催され、本年 12 月にはオーストラリア・シドニーで開催されます。永井先生が蒔かれた種は確実に実っています。

2 つ目は、2004 年 10 月に開催された新生熊薬講演会についてです。熊本大学薬学部の新研究棟竣工を祝って開催される記念講演会に対し、永井先生から、「小田切さん、私も少しばかりお手伝いしましょうか」と言われ、ノーベル生理学・医学賞受賞者の Ignarro 先生と、北京大学から Zhang 先生を招いて講演会は開催されました。この講演会は、名目上、熊本大学薬学部と永井記念薬学国際交流財団との共催になっておりますが、実際は永井先生のお力添えで実現したものでした。講演会には薬学部のみならず、学長を始め、他学部の先生方も多数来られ、250 名収容の講義室は満席で、盛況でした。永井先生の人脈の広さを改めて思い知らされた講演会で、先生のご配慮に感謝の言葉もございません。

3 つ目は、1996 年から 2018 年まで 20 年以上にわたり、熊本大学、崇城大学で薬学概論の講師を務めていただいたことです。先生は、車イス生活になられても、熱い講義をしていただき、受講した学生の感想文には「自分は薬剤師の免許さえ取れればと思い、今まで漫然と講義に出席していたが、永井先生の講義を聴いて、如何に薬学という学問がロマンに溢れ、夢を持てる学問であるかが分かった。これから、気持ちを入れ替え、前向きに講義に出ます」という内容のものが多かったと記憶しております。

このように、永井先生より薫陶を受けた私達は、先生より実に多くのものを授けていただきました。永井先生、本当にありがとうございました。永井先生の薬学に対する熱く深遠なる想いに心からの敬意と感謝を表します。先生にひとかたならぬお世話になった者の一人として、先生の温容を胸に刻みつつ、先生のご冥福をお祈り申し上げます。



第1回シクロデキストリン国際会議の懇親会にて
1980年10月 ブダペスト



第1回AFPS会議・Nagai-Hisamitsu Award Ceremony
2009年10月 九州大学医学部百年講堂にて